

青森家庭少年問題研究会では、25年7月から、毎週土曜日の午前中、小学生・中学生を対象に、学習支援活動を行っています。

青森市母子寡婦福祉会の協力を得て、ひとり親家庭の子どもたち13人を対象に、ボランティア登録してくれた県立保健大学、青森公立大学、青森大学の学生さんが、子どもたちの学習進度に合わせて1対1で勉強を教えています。

## ■子どもの貧困対策が進んできました。

明けましておめでとうございます。今年も、よろしくお祈りします。

去る12月22日、平成30年度の政府予算案が発表されました。「人づくり革命」の柱の下、来年引き上げを予定している消費税財源を活用し、幼児教育・保育の段階無償化、高等教育にかかる授業料の免除や給付型奨学金の拡大のほか、児童扶養手当の所得制限の引き上げなど子どもに対する施策の充実が図られようとしています。

子どもは未来であり、子育ては未来社会の設計です。子どもを大事にする社会であれば、自ずと子どもの数が増えていく、そう信じています。所得の格差を縮小し、全ての子どもが、自らの希望を叶えられる機会を平等に得られる青森県でありたいと願っています。



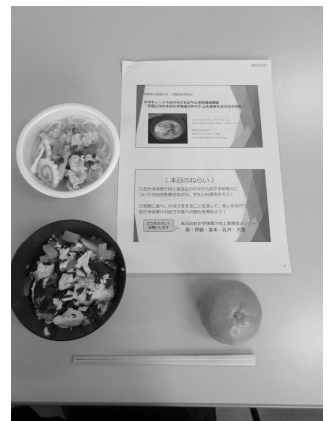
## ■秋のレクはおかず味噌汁づくりでした。

11月の秋のリクリエーションは、スポーツ交流会に代えて、おかず味噌汁づくりを行いました。県立保健大学おかず味噌汁向上委員会の御協力を得て、手軽に作れる「あったか味噌煮込みうどん」と「ほっこり卵雑炊」を子どもたちと学生さんとで協力しながら調理しました。



子どもたちからは「美味しかった。おなかいっぱいになった」「味は薄かったけど、楽しかったからよかった」などおおむね好評でした。

家でお手伝いしている子も、そうでない子も、調理や後片付けで、何かしら一つの役割を持って参加できたことはよかったと思います。スタッフとしても、学習面だけでなく、他の面から一人ひとりの子どもたちの良さを発見し、力を伸ばしていく機会になりました。



学習支援に興味のある学生さんを募集しています。問い合わせは、上記アドレスまで。